

5次総の将来都市像、原案に異論相次ぐ

10日と20日の2回にわたって総務常任委員会で第5次総合計画（改訂版）についての議論が行われました。両日とも、第5次総合計画とは何かというそもそも論からはじまって、将来都市像に議論が集中しました。総合計画は市の最上位計画ですが、計画期間が合併協定の中の新市建設計画と完全に重なっていることもあって、新市建設計画との関連で意見が続出しました。

第5次総合計画改訂版原案で打ち出そうとしている将来都市像は、「海に山に大地に 学びと出会いが織りなす創造都市・上越」です。合併協議の新市建設計画で確認された将来都市像は、「海に山に大地に なりわいと文化あふれる 共生都市上越」でした。

委員会では、「合併後2年余が経過する中で、最初に打

ち出した将来都市像がほぼ達成できたというならわかる

が、そこまで行かないのにどうして変える必要があるのか（杉本議員）「創造都市の『創造』がいったい何を創造しようとしているのか、まったく想像できない」（栗田議員）「みんな切ない思いで合併した。14市町村がこれまでの取り組みや歴史・文化を大切にして共に助け合っている」と、『共生都市』に決めてきたのではなかったか。これでは、13区の市民は合併時よりも後退した印象を持つ」（吉田議員）などという批判が相次ぎました。

こうした委員会の状況を受けて山岸議長は、「総合計画は期限が定められているものではないので、再検討したらどうか」と提案しました。この結果、総合計画の議案提出は当初の9月議会よりも遅くなる可能性が出てきました。

高齢化が進んでいても元気な集落を視察

食料・農業・農村議員連盟中山間地特別部会

一行は21日、大島区の藤尾、安塚区の細野集落を訪ね、集落の幹部の皆さんと懇談してきました。

このうち藤尾は柏崎市に隣接した山間地にある集落です。生産組合の布施正栄組合長さんなどから生産組合の活動状況を報告してもらいました。10人の組合員が水稻だけでなく、花苗やメロン栽培、さらには、みそ加工や漬物などでも頑張っているのには感心しました。小さな集落で生産組織がうまくいっているところはどこでも楽しくやっています。ここでも「ことあるごとに、うんめえもんを食べ、うんめえ酒を飲んでい」とか。視察に行く時は、バス1台借り切って、町場に出た者からも参加してもら

い、にぎやかに楽しくやっているそうです。印象に残ったのは、国の品目横断的経営安定政策にどうあてはめていくかよりも、いまのチームワークを大切に仲良くやることだという組合長さんの言葉でした。

藤尾も細野も共通しているのは良きリーダーがいて、高齢者がとても元気だということです。藤尾では83歳の方がお連れ合いと一緒に1ha（1町歩）も耕していました。その下の年齢では70代の方々が頑張っています。細野では、寝たきりがひとりだけ。あとは全員、現役でバリバリ働いているとのことでした。いずれの集落の懇談会でも笑いがいっぱいでした。



（写真左上は大島区藤尾での懇談会の様子）

美味しい！60センチもあるササギ

16ササギという野菜をご存知でしょうか。ひとつのササギの中に16個の豆が入っているから、そういうのだそうです。



吉川区石谷の曾根嵜さん宅からいただいて食べてみました。普通のササギと同じく美味しい。豆は16個どころか18個から20個もついていました。

日本共産党上越市議員団ニューズ

| | |
|------|------------------------|
| 104 | 2007年8月26日 |
| 連絡先 | 杉本敏宏 524-3787 (東本町5) |
| | 樋口良子 544-6802 (中門前3) |
| | 橋爪法一 548-3628 (吉川区代石) |
| 事務局長 | 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町) |